

第 75 号

発行所 〒157-8560
東京都世田谷区成城1-13-1
東京都市大学附属中学校・高等学校内
電話 03-3415-0104
発行責任者 安藤友二
編集責任者 川鍋勝弘



東京都市大学附属中学校・高等学校〈同窓会ホームページ〉
<http://tcu-kasiwa.org/>



東京都市大学附属中学校・高等学校同窓会(むさこう)発足ドタバタ顛末記

9期生 同窓会理事 鈴木 威一



現理事は若返りが進み、気づけば私は最古参の理事になっていたが、ある日の理事会で次年度の予算案を検討する中で、同窓会発足初期の同窓会経費のやりくりが話題になった。

そこで、当時は年度初めに予算を決める事が困難で、いくらまでの予算が集まったらA案で、この事業を実行し、集まらない時は代替案としてB案で行くと言うような大変フレキシブルな予算編成をしていた。さらに遡ると、予算不足の為に一時期同窓会活動が止まってしまったこともあった。と言うような話をしたところ、どの理事も全く知らない事が分かり、色々な質問を受けた。

理事会終了後に佐々木事務局長より、鈴木さんが退任してしまうと昔のことは誰もわからなくなってしまうので、是非文章に残して「柏」に掲載させてほしいと言う依頼があった。

多くの会員にとっては昔の出来事にすぎない同窓会発足初期の同窓会経費のやりくりのために、当時の同窓会役員(幹事)が、母校が大切にしている公正・自由・自治ののびのびとした、多分他のどの学校にも無いユニークな方法を立案・実行して、安定的な収入確保を成功させた記録を書いている事にした。

この経緯を一番よく知っておられたのは、卒業時に高校の学年主任の高野陽一先生であったが、大倉山高校の校長を退職後関西に移り、数年前鬼籍に入られた。そして後を継いだ小野寺先生も退職されている。

私が高校を卒業した昭和37年は、高校卒業生徒数約360名(一クラス60名×6クラス)の内、約200名が武蔵工業大学へ進学した。成績の良い者から行きたい学科が選べるようになっていて、機械、建築、通信などの学科は希望者が多く競争で学科を選んだ。

卒業生の過半数が同じ大学へ進学するので、同窓会の必要性を感じる生徒は少なかった。

私は理系の学科が得意で成績もまあ良かったが、

本当に好きな学科は、国語、音楽、社会などで、クラブ活動も生徒会委員、演劇部部长、コーラス部部长など、文科系の活動を多くやっていた。

そのため、同級生で東京芸大に進学した者、早稲田大学文学部に進学した者、高校で辞めて高卒で東急電鉄に就職した者、医師の息子で杏林大学へ進学した者、等と親しく付き合ってきた。他にも美大などに進んだ者も居たと思う。同じ五島育英会の亜細亜大学へはかなりのたくさんの卒業生が進学した。勿論、武蔵工業大学へ進学した親しい友人も沢山いた。

自分では意識していなかったのだが、子供のころから世話好きであったようで、小学校、中学校の同窓会幹事も当然のようにやっていた。

高校まで来て同窓会が無いという事は、エスカレーター式に大学へ進学しなかった人たちとの絆を無くしてしまう事に繋がりがねず、それは凄く残念な事に思えた。

そこで高校を卒業して間もなくの大学1年の6月ごろから、同窓会を組織するために母校の先生方に意見を聞いて回った。

背中を強く押して下さったのは、国語の高野陽一先生であった。さらに、その年に都立上野高校から長浜恵校長が赴任してこられ、中高一貫の優れた学校を作りたいと言う夢を実現すべく付属は中高一貫校として動き出した。

長浜先生は、都立のトップ校の一つであった都立上野高校の校長で、校長協会の会長を務めておられたが、中高一貫教育に強い意欲をお持ちになっており、退職時を待たずに職を辞して当校に赴任してこられたと記憶している。

一貫校となれば他大学へ行く生徒も増えると思われ、同窓会の必要性はより強く認識されるように成ったと思う。

長浜校長を始めとして川本教頭など他の先生方も、同窓会発足をサポートして下さる雰囲気が出来たと思う。

同窓会を作ると言っただけでは見たものの、何の知識も経験も無く手探りの状態であった。

同窓会の幹事をやりたいと言う人間が見つからず、付属から私と同じ通信科に入った川田君を説得して9期生幹事兼同窓会常任理事に成ってもらい、二人が常任理事になった。

当時の付属中高は尾山台の大学敷地内にあったので、卒業後も中高を訪ねる事は至極簡単であった。高野先生に卒業生名簿を出して頂き、連絡先のわかる先輩から電話連絡を始めた、一期生でも当時は26〜27歳程度であったが、同窓会を手伝ってくださる方を探すのは思ったより大変であった。

会長は年齢も一番上の1期生が良いと考え、高野先生と相談して、尾山台商店街で米屋をやっている秋山先輩を訪ねて、仕事は全て常務理事がやるので、総会の時だけ参加して挨拶してくればよいと言う約束で、会長になってもらった。

その後各期の代表員をまず選んで、その方たちの互選で、広報（機関誌発行）、会計及び会計監査を決めてもらった。

広報にノウハウを持つ先輩がいる事が分かった。中央大学を卒業し、業界最古の新聞の日本証券新聞社にお勤めの畑さんである、初めての広報誌を作るのにずいぶんお世話になったと記憶している。

また、美大を卒業して挿絵などを仕事にしておられた新戸部氏にも、挿絵等でお世話になった。

役者がそろって初めての同窓会誌を発行した。印刷会社も知っている人が居ないので、大学の同窓会誌などの印刷をしていた会社に印刷をお願いした。

関係者の献身的援助もあって立派な数ページの同窓会誌が完成し、高校の事務が持っていた卒業生名簿を使って全同窓生に同窓会誌を送ることが出来た。

事務局も無いので学校の事務局に高野先生から話してもらい、事務局長の了解のもと、同窓会事務局として住所、電話番号を使わせて頂いた。

最初のあて名書きなども、学校の事務局に無償でやって頂いた。

銀行に口座を開き、同窓会誌には会費の記事も載せて、5000円の終身会費を納めもらいたいとの記事を書いた。

勝手に半分ぐらいの卒業生が会費を支払ってくれと思っていたが、数か月たっても 実際に振り込んでくれたのは幹事を含めて数人であった。

印刷代、封筒代、郵送費で10万円ほど使ったが、この負債を返す当てが無くなってしまった。何の保証もない武蔵工大1年生の鈴木を信頼して手伝ってくださった方々に合わず顔が無い、と言った状況になってしまった。

見通しの甘さを痛感する事になった。

そこで次に考えたのが、何とかこの借金を返すためにお金をしてくれる人が居ないかと言う事であった。

来年卒業する高校3年生の保護者をお願いするのが一番手取り早いと考えて、多めに作った同窓会紙を高野先生、小野寺先生を通じて保護者に見てもらって、少し早めに会費を納めてもらおうと考えたのである。

やってみて驚いたのは、同窓会を作る話を応援しようと言う方は少数で、多くの保護者は、卒業の為にいろいろお金がかかって大変な時期の負担には否定的であった。

多数の生徒たちが同じ大学へ進学するので、大学の同窓会があれば同期生の連絡先は手に入るのも高校の同窓会は本当に必要なのか疑問を持つ保護者もいた。

さらに、同窓会を作る事そのものに反対であると言う保護者が現れてしまい、その方の声が大きかったために、我々を応援して下さった高野先生、小野寺先生が難しい立場になってしまった様で、高野先生から、会費どころか同窓会の存続が難しくなってきたおり学校としては保護者の意見を無視できないし、同窓会が存続できても、学校は同窓会費を集めるといった事務作業はやらない事に決まったので、あきらめて欲しいとの話があった。

万事休すである。

一方、赤字になっている約10万円の費用は、どうしても返しておかないと関係者にかなりご迷惑をかける事になる。

大学1年生の私にとっては一大事であった。

私の親父は長く結核で会社も休職していたので、10万円と言う大金はとても出してもらえる状況では無かった。

そこで思いついたのがダンスパーティーを主宰して、10万円を稼ぐことが出来ないかと言う事であった。

私は家が経済的に厳しい状況だったので、中学3年生の頃から学校を終えると週3回ほど 夜の9時ころまで、銀座にある放送局等のプロの録音をする会社でアルバイトをしていた。私の家の経済状況を見かねてオーディオが得意であった私を、その会社の社長がアルバイトとして使ってくれた。

私が大学に入る前もアルバイトは皆大学生で、慶応、早稲田、中央、東海などの大学生と話をする機会が多かった。ダンスパーティーの情報もここで仕入れた様に思う。

当時、東急沿線は比較的裕福な家庭の学生が多いと言われており、自由が丘、渋谷、神宮前等では学生が主催するダンスパーティーが数多く開かれている事を知った。

採算を聞くと、赤字になってしまうパーティーもあるが、安い会場などを探して採算は何とかとれているという事であった。

儲けなくてはいけないので、どんなパーティーが利益を出しているのか聞いたところ パーティー券が沢山売れる事が必要という事が分かった。当然のことだが、人気があるのは慶応大学主催のパーティー券で、女性の学生がたくさん来てくれるかどうかのカギだと言う。

10%の税金を払わなくてはいけないという事だったが、状況により免税になる事もあると言う事を聞いて世田谷税務署に出かけて行き、同窓会の運営費用を確保するために学校の校友会主催のダンスパーティーを開くので、免税にならないかと相談した。

大学が主催するものはかなりあったようだが、付属高校の同窓会が主催するダンスパーティーと言うのは税務署でも前例が無く、一方まだ色々な事が決まっていない内に税務署に学生が相談に来たという事で、例外的な対応してくれた。

今回1回きりで赤字の可能性が高いと判断され、無税で税務署の承認の印鑑を押してくれた。

区民会館の様な安く借りられる場所で開催して大学生のバンドを頼めば、経費が安く上がり利益が出せるのではないかという意見が、同窓会幹事及び高校教員の意見であった。

しかし私の中では、これは受け入れられない提案であった。なぜなら、そのようなパーティー券を買ってくれるのは、よほど親しい友人か親兄弟ぐらいであり、その程度しか自信が無い事をやるなら絶対失敗すると思ったからです。

三流の内容で三流の人を集めても楽しい会は開催できない。やるからには、一流の事をやるのが私の生き方だったので、とにかく誰にも負けないダンスパーティーを考えてみた。

1. 場所が豪華でワクワクする。
2. 音楽が超一流で、音を聞くだけでワクワクする。
3. 集まっている学生の多くは品が良くて会場の雰囲気良く、女性は着飾って参加したくなる。
4. 出来るだけ沢山の人が会場にいる事で、盛況であると言う雰囲気を出す。
5. パーティー券は安くなく、学生にとっては、ちょっと高めの料金とする。

この様な、企画をしている自分がだんだん楽しくなるような案にしようと考えて、日本一のダンスパーティーを企画してみようと決め、学生ではあったが、アルバイトの関係で一流ホテルに出入りする機会も出来、それらのホテルの中で特に気に入ったのが、赤坂プリンスホテルの旧館と呼ばれていたクラシックな西洋館であった。主に結婚式場の様な使われ方をしていた場所なので、日にちはホテル側の都合に合わせるので、学生のダンスパーティーに場

所を安く貸してくれないかと言う交渉を学生服姿で飛び込みで行った。

支配人に会って話をしたところ、思いがけず前向きな返答が頂けた。

このホテルの部屋が使えれば超一流の会が開けそうだと自信が少し付き、日本トップのダンスバンドはどこかを考えてみた。ダンスホールで最も有名なのは奥田宗弘のオーケストラであったが、このオーケストラはスローな曲が得意でワルツやブルースと言った曲では抜群であった。しかし、学生にはむしろリズムの強いバンドのほうが、踊り易い事を知っていたので、ラテンバンドとして超有名であった有馬徹とノーチェックバーナにお願いしようと決め、放送局の知人にお願いして紹介してもらった。

詳細は覚えていないが、大きなホールに出演中の有馬徹さんが会ってくれると言う。

ここへも、学生服で出掛けてバンドの出演をお願いした。

場所が赤坂プリンスホテルの旧館でと言ったところ、あそこは思いっきり演奏できるし良いところだよ、と言って快諾してくれた。予算があまりないので安くやってくれるようお願いしたところ、分かったよと二つ返事で了解してくれた。

大人相手の交渉が順調に進んだことで、勇気をもった思いだった。

1. 武蔵工大の評価は社会人の世界でかなり高い事を知った。
2. これは卒業生たちが社会に出てからどの一流大学にも負けない信用される仕事をしている為。
3. 武蔵工大が東急コンツェルンの五島慶太先生によってサポートされてきた良い大学であると言う事が信用に繋がっている。

と言う大きな発見があった。

さて、印刷して税務署で印鑑を押してもらったパーティー券をしっかりと売らなくてはならない。大学に入ってから、人に頼まれて一度パーティー券を買ったことがあるが、人に物を売るという事も人生初めての経験であった。数人の先輩を含めて同窓会の幹事でパーティー券を5枚引き受けてくれた人は数人で、同期の川田君は売れる宛てが無いと断って来た。

300枚は売らないと赤字で、利益を出すには400枚ほど売らなければならない。

大学と高校の知った人を限なく回ったが、引き受けてくれた数は何と30枚程度であった。

あまりの状況に絶句状態、武蔵工大関係者はくそまじめな人が多く、ダンスの出来ない人がクラスの8割だった。これでは売れるはずがないので、有名バンドの演奏会と考えて、音楽を聴くだけで楽しいよ！とキャッチフレーズを変えてみたが、特に地方

出身の武蔵工大生は全くダンスの経験が無く、生バンドの演奏会に行った事も無い人が大部分であった。一流の場所も一流のバンドも、全く興味のない人にとっては猫に小判であったのである。

この良さを分かったくれるのは、東京の中心部にある総合大学か女子大であろうと考えて、知人の中から音楽好きの友人に電話をかけてみた。慶応や早稲田、東大などは、学内に沢山の会があり、ダンスパーティーは母校以外はよほどのことが無いと興味を持ってくれないという事が分かった。

一方、当時学内に工学部がなかった青山学院大、上智大等では、少数であれば売れるだろうと言う反応であった。意外だったのが、武蔵工大は女子大生に非常に人気がある事が分かったのである。

世田谷区、渋谷区の女子大では、飛ぶようにパーティー券が売れたのである。

昭和女子大、東横学園女子大、東洋英和女子大、実践女子大、国本学園、日体大、青学は凄い数買ってくれた。売れそうな人には、数十枚単位で券を預け、売れなかったら戻してくれてよいと言う条件にしたのだが、売れ残りは殆ど無く追加注文が来るほどだった。

お蔭で、用意したパーティー券は完売したのである。

当時武蔵工大には、女子学生は建築科に年間数名で、他の学科は殆ど女子学生は居なかった。

真面目な男性が多く偏差値も一流どころ、家系の比較的良い学生が多いと言われていたようで、東京の女子学生にとって武蔵工大生は良質の安全パイと映っていたのであろうか？

ともかく、パーティーは満員盛況で、女性が男性よりもかなり多かった様である。

男性を期待して来てくださった方には申し訳なかったが、素晴らしい雰囲気で我が国最高クラスの生演奏が聞けて、満足して帰っていただけたのではないかとと思っている。

当日、沢山券を買ってくれた女性から、踊ってくれる男性が少なすぎるとお叱りを受け、友人と一緒に何人もの素敵な女性と次々と踊ると言う幸運にも恵まれた。

これで稼いだお金は、ホテルのホール代金・33枚分、音楽バンドの支払い・33枚分、パーティーの配布ビラ・チケット印刷代・30枚分、借金返済のための利益金・33枚分、合計約130枚の券を販売して目的を100%達成した。

自分が行動してかかった交通費や事務手数料などは全て持ち出しになったが、多くの大人たちに助けってもらって同窓会の借入金10万円を全額返済できたのである。

お金の無い時に自分で稼ぐ大変さを身を持って体験した自分にとって、今は生徒たちの保護者に理解のある方が多く、付属中高卒業時点で終身会費が納入されることは、とてもありがたい事である。

今の理事は過去のいきさつを知って、毎年会費を納入して下さっている保護者の方々に感謝すると同時に、無駄使いの無いよう心して運営にあたって欲しい。

年寄りみたコメントになったが、母校と同窓会の益々の発展を祈って顛末記のクロージングとしたい。
以上



同窓会について

定期的に行っている同窓会の活動

1. 総会・懇親会を毎年5月に行います。
2. 理事会を年6回開催します。
3. 同窓会報「柏」を年1回発行します。(ホームページにも掲載)
4. 母校の「柏苑祭」に参加します。
5. 母校の「キャリアスタディ」に協力します。
6. 同窓会会員の勉強会を開催します。

ブログ
新規開設

キャリアスタディへのご協力をお願い

同窓会では、2009年度から中学3年生対象のキャリアスタディに協力しています。中学3年生に「今までと、今の自分を見つめ、将来の職業や進学に目を向けてもらいたい」と考え、1年間のプログラムが組まれています。これは「将来の職業を決めること」が目的ではありません。そもそも職業選択とはそんなに単純なものでは、ありませんから。それでも少しずつ具体的な行動に移していく、そんなプログラムです。

今後も同様に活動が続けていくために、活動に協力していただける同窓会会員を随時募集しています。

これまでに協力いただいた同窓生からは『自分の子供だとなんとか照れくさいが、後輩だと結構話ができる。』等、ご好評をいただいております。

さらに、協力企業(団体)からも、引き続き協力したいとの嬉しい回答をいただいております。

皆様の積極的な応募をお願いいたします。

同窓会総会・懇親会のご案内

日時：2023年5月27日(土曜日)ただし、COVID-19の状況により中止の場合あり。

総会：16時開始 懇親会：16時45分 事前に申込み及び会費納入が必要

場所：渋谷 エクセル東急ホテル 東京都渋谷区道玄坂1-12-2(渋谷マークシティ内)

開催可否等は2月中旬に同窓会ホームページに掲載します。



キャリアスタディ2022

① 業あり先生

2022年6月実施

このプログラムは、社会で活躍する人生の先輩方による講演会です。

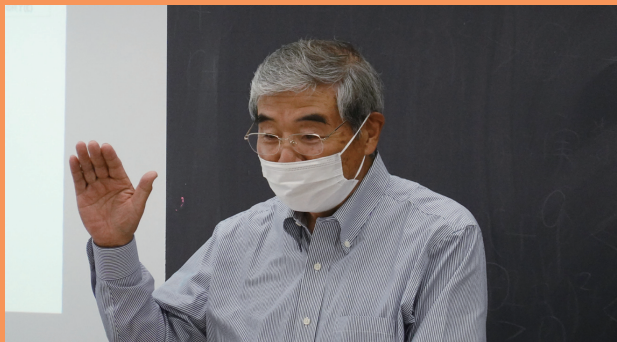
キャリアスタディの目的である「社会人とは」、「仕事とは」、「仕事に就くまでの間に何を学んでおく必要があるか」などを中心に、生徒達へメッセージを伝えます。

講演終了後、学んだ事や感じた事をまとめた生徒達の感想シートは講師へフィードバックされ、多くの生徒が講義の内容をしっかりと受け止める高い聴く力や、気持ちのこもった言葉で感想を表せるアウトプット力を備えている事に驚かされました。この様なフィードバックを受けるプロセスによって、講演者にとっても更なるモチベーションの向上に繋がりを、運営に関わっている同窓会にとっても本活動の意義を再確認する良い機会となっております。

宇田川 晴義 先生

東洋大学評議員、東洋大学名誉教授

演題：「本当にしたい仕事は:周囲の人を幸せにする夢と希望を持つ」とう」



生徒の感想

今回の講義で、今まであまり良く分かっていなかったこの中学、高校の今がこれからの自分にとってどういう時期なのかということを確認することができた。自分も大谷選手のようにマンダラアートを書いてみようと思った。また、これからの将来に向けて、自分の適性を見つけ、自分が将来に何をしたいのかという道を見つけ、その道に向けて、努力をし続けていきたい。また、これから大人になるにつれて、楽しいことも大変なことも同じくらい多くあると教えてもらった。苦しいことも全て楽しんで取り組んでいきたい。今日はありがとうございました。

蒲生 政和 先生

キャリアコンサルタント・キャリアデザイン講師
ICT アドバイザ (IT システムアドバイザー)

演題：「システムエンジニアって何?」



生徒の感想

社会人はどんな職でもコミュニケーション能力は必要だと知っていたが、SE は他ほど必要でないと思っていた。だが、SE という仕事は商社のように売り込みに行くこともあれば、様々な職の方と話し合いをするという、トップレベルでコミュニケーション能力が必要ということにとっても驚いた。また就職活動についてもお話し下さり、「次に来そうな職種を見極める」ということは、父も以前言っており、とても大切なことだと分かり、今日から心がけてみることにした。また、「三日人口」も毎日欠かさずやり、字を矯正しようと思う。興味のあることはとりあえず手を出すことは、以前からも行っていたが、「一歩踏み出す」ではなく「頭を突っ込む」というさらに踏み込んだことを先生はおっしゃっていて、これは見習わなくてはと感じた。とても有益なことが聞け、楽しい授業だった。

鈴木 威一 先生

(株)エグゼック 取締役会長

元オランダフィリップス本社副社長、元アメリカ IR 本社副社長
元沖チヤイランド代表取締役、元沖電気本社部長

演題：「武蔵工大卒業を誇りに思い、世界の超有名大学卒業生たちを部下として使い、幾つもの会社を成功させた、都市校生(学歴より実力)は、どんな男か?」



生徒の感想

世界で活躍している鈴木さんのお話を聞いたことは、とても貴重だったと思った。「大事なものは、目標・やりたいことをやる」これがとても印象的だった。勉強の目標が決まらない今、とても心に刺さった。大学や会社は名前や偏差値などといったゆるい感じだと失敗してしまうことを知った。大事なものは、何をやりたいか。その目標を決めたら、筋道を作ったり、実施計画を立てることが必要である、なので、今日から僕も期末テストに向けて、目標・実施計画を立て、何かの科目でクラス1位を取れるようにしたいなと思った。とてもためになる、ありがたく、すごい話だった。

立野 慶 先生

医療法人社団ユニメディコ理事長、医療法人社団マイスター理事
昭和大学医学部整形外科兼任講師
脊椎外科医、スポーツドクター専門医、昭和大学アメフト部監督

演題：本当の医療現場とは？
大学病院から在宅医療
まで



生徒の感想

先生のお話を聞き、医師には、患者さんやそのご家族に寄り添うことが重要であることを知りました。自分の父も医師をしており、ボストンに1年間住んでいました。小さかったのであまり記憶はありませんが、ボストンや日本の父の仕事現場を見て医師に興味を持ちました。また、最近は命に関わる仕事につきたいと考えるようになっていきます。しかし、自分は医師になりたいと思っただけで、先生のおっしゃっていた、税金など、お金に関しては何も知らなかったため、少しずつ学んでいこうと思っています。医師には、患者の生き方にどう寄り添うか、距離をとって相手の気持ちを考えることが重要であると言われましたが、これは日常生活から練習できることであるため、今から養っていこうと思います。

久野 新一 先生

株式会社エイチ・エヌ・アンド・アソシエーツ 代表取締役会長

演題：ビジネスって何だろう？ 会社を作って何をする？



生徒の感想

勉強をサボると後になっておいていかれることを強く感じた。知識が多ければ多いほど企業の中で有利になるということなので、興味を持った本、興味のある事に関する本をもっと読もうと思った。世の中のニーズに対応して起業することで成功しやすいのではないかと考えた。日本の中だけでは世界的な態勢が分からないため、留学や海外での労働をすることも大切だと分かった。戦争を起こさずに大きな問題を解決する方法を考案したり、過去の過ちを繰り返さないように歴史をよく学ぼうと思った。世の中のニーズに対応して好きなことで稼ぐことが一番良いということを感じた。自分の失敗をたくさん言ってくれてそこから考える「こうすれば良い」ということを言ってくれてとてもありがたかった。

長倉 明彦 先生

ユーロフィン FQL 株式会社 代表取締役社長
(旧富士通クオリティー・ラボ)

演題：「品質ってなんだろう」



生徒の感想

今回の講義を聞いて、1つの品質によって誰かの人生を変えてしまったり、作り上げてきたものがゼロになってしまうことを知り、1つ1つの物事に正確に出来ない所を隠したりせず、やり通すことが大切だと思いました。ハインリッヒの法則を聞いて、部活の時、どこかが痛い時、それを放っておいて悪化してしまったり、美術で何かおかしいと思ってそのまま続けて構造的に間違えてしまうことがあったから、この学校生活の中で、小さな物事を見落とさないように取り組みたいと思いました。これからは1つ1つのことに責任を持った行動したいです。

河合 広介 先生

株式会社トライキッツ 代表取締役

演題：仕事とは何か？ 働くとは何か？



生徒の感想

最初の動機が何であれ、とても素晴らしい目標をもって現在働かれているというのを聞き、未だに勉強の意味を見いだせていない僕も、早く意味を見つけて人生のゴール、すなわち、死ぬとき、何の後悔もないようにしたいと思いました。僕の父も経営者で、小さいころからその厳しさ、大変さを聞かされてきました。しかし、何の目的があって、何を目標として今働いているのかについて聞いたことがありませんでした。河合先生のような理由がってやっているのか、はたまたお金のためなのか分かりませんが、一体どのような人生設計をしているのか、聞いてみようと思います。そして、自分自身にも問いかけてみようと思います。果たして志をもって人生設計ができるか、後悔のないよう生きているか。貴重なお話し誠に有難うございました。

キャリアスタディ2022

②考えてみよう30歳の自分

2022年9月実施

このプログラムは、20代後半から30代前半のOBによるパネルディスカッションです。

8人のOBが「中高生時代のこと」「現在の仕事について」「大人になった今中高生時代を振り返って」

などのテーマに沿って生徒たちの前で話しをしていただきました。

生徒自身に「10～15年先の近い将来」をイメージさせ、先輩の当時の中高生生活や当時の後悔に耳を傾けることで、生徒自身が「自らの生活全般を見つめ直す」きっかけとなればという思いからの企画です。

1. 中高生当時の自分に言ってあげたいこと（後悔）—— 当時に戻れるならこうしておけばよかった、あれを我慢すべきだった、など。

青木 ・英語のスピーキングの経験を積んでおけばよかった

—“発音の練習”ではなく、人と人との会話

⇒理由：現在、仕事で英語を利用する場面が多いが、自分がビジネスで利用する範囲の内容については、ある程度慣れ

（会話の流れからの予測等）で乗り切れる。

しかし、雑談のようなNon-ビジネスの会話は、あまり話す機会が無く、いざその場面に出くわすと話題がどんな角度から飛んでくるかわからないので、難しいと感じるため。また、雑談は勉強で学ぶようなかつちりとした英語ではなく、いわゆる口語で会話が繰り広げられるため、それについてもなかなか慣れるのが大変なため。

・少人数や一人で行え

る趣味を見つけることや自分への投資

⇒理由：自分はずっとサッカーをやってきて、今も趣味で社会人サッカーをやっているが、周りも社会人になり、家庭も持つとなかなか団体スポーツを定期的に行うことが難しいと感じることがあるため。また、いざ新しい趣味を見つけようと思っても（自分的には）日々の忙しさに忙殺されてしまい、なかなか踏み出せなかったりすることが多い。そのため、一番自分のために時間を使える中高大の学生時代に自分が没頭できる趣味や自己啓発に時間を要することで、その後の社会人生活でもOn-Offが切り替えられ、適度にストレス発散することが容易なのではないかと思う。

橋本 「世の中にどんな仕事があるのかを、もっと知ろうとすればよかった。」

当時、大学って何のために行くのか？余り自分の中で明確なものが無く、一先ず大学に行くのが当たり前、大学に行く事が目的で、勉強しないといけないんだ、という意識だった。正直どんな大学に行きたいのか、どんな学科に行きたいのか、その辺りが分からなくてモヤモヤしていた。

今思えば、どんな仕事に就いてみたいかを考える、そこまで行くのは難しいにしても、世の中にどんな仕事があるのかを、もっと知ろうとすればよかった。それが恐らく、大学に行く意味や、どんな大学に行きたいか、という明確なものに代わっていただろう、と思う。

というのは、自分が就職を経験してみて、大学で勉強したことが、やりたいこと＝仕事で活かせることは、大きな武器になると思った。つまり、やりたい仕事が、大学・学部の選択に繋がっている



●パネラー (8名)



青木 涼
(高校56期・サッカー部)
(株)ファーストリテイリング(ユニクロ)デジタル業務
改革部



中田 隆大
(高校57期・吹奏楽部)
(株)東急レクリエーション
人事部人事課



橋本 佳為
(高校56期・テニス部)
日本航空(株)運行業務部業
務グループ主任



川本 恭平
(高校58期・自動車部)
(株)SUBARU 技術本部環
境安全戦略部主査



野口 弘毅
(高校57期・自転車部)
横浜市交通局工務部建設改良
課計画係



土井 章弘
(高校60期・自転車部)
P&G(株)営業統括本部マ
ネージャー



渡辺 裕介
(高校57期・鉄道研究部)
東急バス(株)運輸事業部運
輸計画部計画課



浦野 雄大
(高校61期・吹奏楽部)
BOSCH(株)クロスドメ
インコンピューティングソ
リューション事業部

るということであり、皆さんの身近なところで言えば、進路の選択に関わってくるということ。

そういった経験を振り返って、「自分は何をしたいか」、そして「そこに向かって何をすれば良いか」という「計画を立てること」が大切だと思っている。

なので、大学に行くことが目的になっていた自分に対して「まずは、どんな仕事があるのか、興味をもって調べてみたら?」それが、おのずと、“どんな仕事をしてみたい”や“どんな大学・学部に行きたい”“じゃあ、どんな勉強をしなきゃいけない”といった計画を立てることにつながるし、勉強を頑張ろう、というモチベーションにも繋がるから、と言いたい。

野口 今の私生活、仕事に満足しているので、中高

生時代に大きな後悔はあまりないですが、あえて自分に言うとしたら、経験して無駄になることは一つも無いから色々なことに挑戦してみてと声を掛けてあげたいです。

それと色々な大人(両親、先生以外)から色々な話を聞いて見るのも刺激になっていいかもしれないです。

渡邊 もっとと素直になって、わからないことを早いうちに聞いてみなと声を掛けたいです。高校1年、何かの奇跡で当時アドバンスクラスにいました。クラスの中では下のほう。皆の頭が良い中で、何かわからないことを質問することに対して後ろめたさがありました。

自分に素直になれなかった分、高校2年からはスタンダードクラスに籍を置く形になりました。



変なプライドを捨て、傷が浅いうちにうまく聞けるようになって成長していった方が、将来有意義な生活が送れるものだと思います。

社会に出る前に挫折を経験したことで、ツライことにも早めに対処できるような耐性がついたのだと思います。

中田 得意科目、不得意科目の意識をせず、万遍なく勉強して、可能性を残しておくべきだったと思います。苦手なもの程、努力が苦痛になるとは思いますが、その忍耐力もいずれ社会に出た時には必要になったりします。

川本 高校3年生の卒業式。僕は五島育英会賞を受賞し賞状をもらう。その1時間前、保健室で寝込んでいた。腹痛。受験に失敗し続け、栄光の裏で僕はほぼ浪人が決まっていた。どん底。僕は優等生ちゃん。6年間ではじめて入る保健室。今でもよく覚えている。屈辱。文系で東大に行く生徒がいない中で一人東大に行くと言。そこまではいいけど傲慢だった。勉強方法も受験の臨み方も自前。人の話聞かない。受験期には敗戦が続き、2011.3.11。踏んだり蹴ったり。浪人なんてするもんじゃない。現役で大学に行き、1年間留学した方が人生のためになる…けれど、自分で失敗しないと気づけない。だから後悔はしていない。これだと思ふやり方で思い切り失敗する。そして学ぶ。これからもそうやっていかないと成長しない。これからもそれができるか。高3の自分が問いかけてくる。読み返すとこの文章も大分偉そうだ。何も変わっていない？笑

土井 ありきたりですが、もっと勉強しおけばよかったという点と、留学も含め海外との接点を持っておくべきであった。トシコーの中で井の中の蛙にならず、広い視野と感覚を早い内から身につけて、努力を厭わない人材になりたかった。

浦野 漫画やゲームに逃げず勉強に立ち向かう心を養うべきだった(今の時代はスマホがあるので当時の自分なら余計に無理そうですが…)。テ

ストのために勉強するのではなく受験や将来に使える勉強をすればよかった(そうすれば受験勉強ももっと楽だったはず…)

2. 今の職業に就こうと思ったきっかけは？——積極的なきっかけがあったならば「いつ頃、どのようなきっかけ」であったか。

青木 ・SE(システムエンジニア)という職につこうと思ったきっかけ:

—どちらかという消去法

—元々、営業職のような人とのコミュニケーションをメインにする仕事は自分にはあまり向かないな—と漠然と思っていた。また、「何かを作る」ということにワクワク感があり、その中でもこれからホットになるIT系に興味を湧いたため

・今の会社に入社しようと思ったきっかけ:
—前職(富士通)では、ベンダーという立場で顧客にソリューション提供をしていたが、勤続5年目を迎え、ある程度仕事が自分で回せるようになってきた時、ベンダーという立場だと、顧客の課題解決だけではなく、自社の売上をセットで考えなければならない立場のため、なかなか課題の根本的な部分だけを考えるのが難しいと感じるようになった。また、自分がいた部署はシステムそのものに触る機会は多くなく、プロジェクト管理や契約手続き、顧客折衝等がメインだったため、技術面での向上が難しいと感じていた

—一方、現在の会社はクライアント企業のため、自社の課題に対して100%解決に取り組めることに加え、できる限り自分たちでシステム構築や運用を行っていくという風習があるため、技術面でも向上が見込めるのではないかと感じたため。

橋本 そもそも、就職するにあたって2点考えていた。

①「自分が仕事をしていくうえで、好きだと思ふこと、興味があると思ふことに関わりたい」

②「大学で勉強したことを活かしたい」というもの。

【①小さいころ飛行機に乗った時のあるエピソードが心に残っていた】

父の仕事でインドネシアに行くときに、CAさんがコックピットに連れて行ってくれた。その時の思い出が強烈に残っていて、その経験をとおして、飛行機が好きになった。そういう経験を踏まえて、就職活動を前に、どんな仕事に就きたいかを考えたときに、自分が小さい頃から好きだと思ふ

いたことに関われる1つが航空会社であり、かつ、自分が感じたような喜びを提供できる、一員になれたらと思った。

【②大学で勉強していた知識・経験が、今の会社で発揮できると思った】

大学では「モノづくりの現場において、どうしたら生産性を向上できるか＝カイゼン」ということを学んでいた。丁度、大学院で勉強していたころ、モノづくりのカイゼンの考え方をサービス産業にも展開していこう、と国が盛んに言い始めたころだった。であれば、まだまだカイゼンに対する考え方が弱いサービス産業であれば、自分の学んだ勉強が重宝されるだろうと思った。

⇒ ①・②がきっかけで航空会社に行きたいと思った。

野口 大学4年生で研究室に入ってから、基礎自治体(新潟市、さいたま市)の方とやり取りをさせてもらう機会があり、その方たちが市民の方と楽しそうに仕事に取り組まれているのを見たのがきっかけです。

渡邊 中高のバス通学の影響が大きかったと思います。利用者として感じたこと、定期券があったことにより路線図に詳しくなり、今の仕事には大きく影響しました。

東急線・バスが好きで、いつかは新規路線事業に携わってみたい。路線新設の可能性も、鉄道に比べバスは高いのではないかと思い、当時就活をしました。

てっけんはOBの関係も密であり、先輩方からの経験談や助けもあり、志望業界へと進めました。

中田 東急グループに入りたいかったのだが、1番自分の性格に合っていたのが、今の会社だった。

川本 大学3年生の就活時。大学4年間で僕はとにかく演劇に時間を捧げる。お芝居の道に進むか、普通のサラリーマンになるか悩んだ。社会の中でもまれてみたい。どうせなら世界と関わりたい。自分が得意なのはみんなで協力して一つのものを作ること。それは芝居も車も変わらない。車ならどこが一番カッコいいと思う？SUBARUだ。

土井 現職は転職して入社しておりますが、前職で貿易業務を行う中、会社に依存せずにキャリアを構築し、自分の好きな場所に住んで生活を送りたいという軸ができてきた故、キャリアの通過点としてBtoCの業界に身を置き、来るべき独立の日に向けて消費行動の理解を深め、自分の定めたゴールに一步步進んで行きたい。

浦野 ①大学3年前期に制御工学という授業に出会い、自分の本当に好きな教科が見

つかった。(とても厳しい教授だったがその先生の研究室に行った) ②大学3年生の終わり(春休み)に自動車免許を取り、自動車の開発に携わりたいと思った。③大学2年の終わり(春休み)に1ヶ月カリフォルニア州に留学行ったことが後押しとなり、英語で話せる環境に身を置きたくなった。

3. こういう大学生に我が企業に来てほしい、皆さんが(もしくは企業が)一緒に仕事がしたいと思う人材像は？

青木 1. 知識欲がある

ー仕事をしているとわからないことだらけだが、わからないことをわからないままにしておくのは個人としての成長も望めないし、同じミスを繰り返すことになり周りからも信頼されなくなる。

2. 論理的思考力がある

ー1にも関連するが、新規サービス立案や既存サービス改善にはかならず「課題」がつかまとう。その課題の本質を捉えるためには、「なぜその課題が起きているのか」というのを紐解いていく必要があるが、それには1の知ろうとする力と論理的思考力が欠かせない。

3. コミュニケーション力

ー結局、仕事は人と人で行うことがほとんどであるため、コミュニケーション力は必要。ただ、自分が考えるコミュニケーション力は「話が上手いこと」という意味ではなく、「人とディスカッションができること」と捉えている。そのためには「相手の話を聞き、本質を捉え」、「自分の意見を伝えることができる」ことが大事であると考えている。そのため、仮に口下手であったり、端的な説明が得意でなくても、それはそこまで問題にならないと思う。そのため1と2の方が重要と考えている。

橋本 「子供の頃、親や学校の先生から教わった



ベーシックな事がしっかりできる人、が大前提」世の中、ものすごいスピードで変化をしていつている。その中で、生き残っていくためには、企業は常に進化していくことが求められている。そういった時代だからこそ、どこの企業でも「新しい価値を生み出すために、失敗を恐れず果敢に挑戦できる人とか」を求める人財像として、あげていると思う。

そこは勿論必要だと思うが…やっぱり人間同士で働く、チームで働くので、「正直でありなさい」「うそはつくな」「人を騙すな」「約束を守る」「他人を思いやる」といったような、子供の頃、親や学校の先生から教わった非常にベーシックなことがしっかりできる人、が大前提だと感じる。そういった基礎が備わっていない限り、いくら優秀でも働きたいとは思わない。つまり、そういったベーシックなことがしっかりできる人、が最低条件なんだろうと思う。

野口 何でもやってみよう！という感じで仕事を選び好みしない人。話すのが好きな人。公務員はコミュニケーション能力が結構求められると思います。

渡邊 小さな約束の積み重ねを守るひと。周りとしっかり相談しながら、落としどころを一緒に見つけられるようなひと。自然に報告ができていくひとは吸収も早く、チームで活動する時ものびのび業務に取り組んでいる気がします。

中田 挑戦する事に意欲的な人、楽しい事を心から楽しめる人

川本 自分が正しいと思うことを正しいと言える人。

土井 努力の仕方を知っており、楽しめる人。成長意欲があって、自分を律することができる人は、どんな業務や状況でも必ず成功すると思っております。

浦野 物事を表面的ではなく本質で考えることができるひと。多角的な視点(広い視野)を持っている人。主体的に動ける人。自分の芯を持っているが、素直さも持ち合わせている人。

4. 自分の経験で「中3の後輩たちにぜひ伝えたいエピソード」があれば教えてください。

橋本 「模擬試験・定期テストは、高い順位を取ることが目的ではない」

試験の順位が出ると思うが、自分は、一時期「あ～前回より落ちちゃった」「次もこのくらいの順位取らないと」とか、やたらと気になって、変なプレッシャーになったことがあった。同じように感じる人もいるかもしれない。でも今考えると、試験の順位は、高い順位を取ることが目的に

なっていたから、プレッシャーを感じていたのだと思う。試験の順位は「自分の目標＝どんな仕事をしたい → どんな大学・学部に行きたい」に対して、「自分がどこにいて、この先何をしないといけないか」を知るための、バロメーターに過ぎない。落ちたとすれば「次に向けて何をしなきゃいけないか、考えるきっかけがもたらされた」くらいに考えていければ良いと思う。

野口 大学生になってから、特に国立だったので、さまざまな家庭環境の人たちと接する中で、中高私立に通わせてもらった自分がとても恵まれていると気がついたことでしょうか…学ぶ機会をたくさん作ってくれた両親に感謝しています。

すみません、他に思いつきませんでした…。

中田 周りの人の事を気にする事はなく、自分の考え、価値観という軸があるのなら、それを大事に生きてほしいと思います。

川本 中3の大きなトピック2つ ①はじめて部活で設計した車。皆に協力してもらって完成したのにどう見ても失敗。コーチにめっちゃくちゃ怒られる。まさに15年前の9月、目の前真っ青。死ぬ程落ち込む。でもこの話には続きがある。 ②「君の成績なら東大も目指せるよ」、進路面談で思いがけず言われる。中3の私には東大なんて考えたことなかった。「よし！やってみよう。」結局失敗したし、今のトシコー生のレベルではちょっと恥ずかしい話だが、高い目標。上等だ。今のトシコー生は海外の大学などいかがでしょう？

土井 漠然とでもいいので、自分のなりたい将来から、逆算して今やるべきことを考える訓練が始められれば、10年後には圧倒的に優秀な人材になってること約束します。もちろん実情は疲れていたり、友達との付き合いがあったり、私自身が全然できていなかったのも、すごく共感できます。なので、まずは1分でいいので自分がやるべきと思ったことに取り組むことから始めてみましょう。その1歩で人生が動き出します。

浦野 第一志望の国立大学にはあと3点で不合格となり芝浦工大に進学したが、第一志望でなかったからと言って決して悪い人生を送ったかと言うとそう言うわけではない。むしろ進学したからこそ今の人生があるとも言える。ただ、入学試験というのはある一定層をふるいにかけることと等しいので、難関大学に進むと言うことはより志の高い人たちと知り合い、より質の高い教育を受けられることができ、人生の選択肢を増やすことができるので、ぜひそのことも念頭に置いて来たる大学受験に向けて少しずつ備えていって欲しい。そして、「後で悔やむ」ことがないようにその瞬間瞬間、どうするのがベストなことが考えて行動をして欲しい。

キャリアスタディ2022

③先輩に聞いてみよう65

2022年11月実施

「先輩に聞いてみよう65」というプログラムを10人のOBのサポートによって開催いたしました。

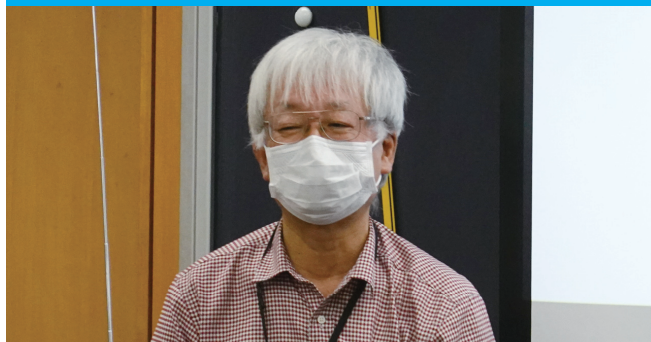
このプログラムは、単に講義の話を聞くだけでなく、生徒が先輩に聞いてみたい事に対話するスタイルにするのが狙いです。

当日は、生徒たちからも多くの意見や質疑応答があり、活発な対話が行われ、中学3年生には難しいとも思われるテーマについても、ほとんどの生徒が強い関心を示してくれました。

22期生 小泉 達雄 先輩

株式会社アストロノーツ 代表取締役

演題：危機管理について、戦後の日本とこれからの課題、エンジニアとは



生徒の感想

私は以前、「良い会社と言えばGAFAやソニーといったトップ企業」という固定観念がありました。しかし、「良い会社」というのは「自分のアイデンティティ」に合う会社という話を聞いて目から鱗でした。私は未だに自分のアイデンティティを見つけられおらず、良い会社（自分にとって）とは何だろうか考えるようになりました。そこで役に立ちそうだと考えたのが小泉さんの「物事の本質を考える」というお言葉です。これはアイデンティティが自らの得意を尖らせたものであるという事の裏付けになりました。得意を見つけ、得意を探す最も単純な方法こそが勉強、実習だと思うので、今のところは勉強を頑張ってみようと思いました。またコロナや戦争、オイルショック時の経済などの知識はとても参考になりました。ありがとうございました。

16期生 小林 英世 先輩

株式会社交文社 代表取締役社長

演題：これからの自動車社会(自動運転・電動化)



生徒の感想

自動運転という技術が発達してきていて、近い将来完全自動運転が実現すると聞き、楽しみになった。また機械が操作するので、人が運転するよりも安全で事故や渋滞、あおり運転なども減り、良いと思った。一方、自分で車を運転する楽しさが完全自動運転では無くなってしまったと思ったので、僕自信は現在のレベル3の60km/h以下という基準をさらに緩くした状態が好ましく感じた。

22期生 山下 博一 先輩

NHK グローバルメディアサービス スポーツセンター 統括部長

演題：“地上波テレビからスポーツ中継が消える？スポーツは誰のもの？”



生徒の感想

僕は今回の講演を通して感じたことが主に2つあります。1つ目は、瞬時の判断力と柔軟性です。僕はよく友達や親とけんかをしてしまいます。しかし、そういう時は自分の考えしか考えられず、そのまま考えを変えられないまま、ヒートアップしてしまいます。なので、今回を通して、瞬時の判断力と柔軟性を持って行動していこうと思いました。2つ目は、ONとOFFの切り換えです。僕はよく勉強を始めようと思っても、ゲームからすぐ手を離せられずその日はやらないということがあります。しかし、今回を通して、今後のためにも、ONとOFFは意識していこうと思いました。

22期生 福田 光秋 先輩

日産工機株式会社 総務人事部 採用担当主管

演題：日産自動車が考えているクルマや移動の
未来 & なぜこの世界に飛び込んだか！



生徒の感想

僕は今回の講演を聞いて、たった1種類の乗り物ある「自動車」でも有効活用すれば地球温暖化や過疎化といった大きな問題を解決する手段にもなるということを知ることができたし、人生100年時代といわれている中で日産自動車はモビリティサービスを高齢者は初めて使う人にも使いやすくしていただいていると思いました。また、「想像しよう」と「実行しよう」という言葉を聞いて自分の将来について考えるキッカケになったし、日産が目指しているスマホ1つで車を呼んで乗れるシステムのように、僕も何か目標をたてて想像し、実行できるように日々努力していきたいと思いました。

33期生 立野 慶 先輩

医療法人社団ユニメディコ 理事長 医師

演題：医師になるためには？



生徒の感想

立野先輩のお話を聞いて、自分が将来何をするかしっかり決めてから逆算をしていき、入りたい大学、学部を決め、今すべきことを明白にすることが大事だと感じました。お話を聞く前の自分では、なんとなく勉強をしていましたが、今では自分がどんな形で社会にこうけんするか人生の目標設定をすべきだと考えました。生き方しだいで変わる社会からの見られ方などのリアルなお話を聞かせてくださりありがとうございました。

22期生 笠原 唯男 先輩

株式会社アムテッド 代表取締役社長

演題：太陽光発電と再生可能エネルギーの今後の
導入の可能性について



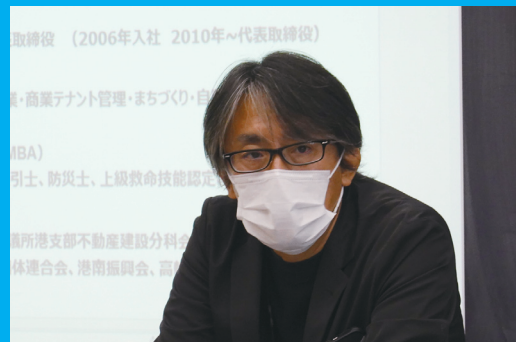
生徒の感想

中学時代にやっていた部活での経験と今の職業とで重なることがあるということを知り、今の自分には明確な夢はないが、将来的にこのことをやってよかったと思えるように目の前にある選択肢を悔いのないよう選択していきたいと思った。グレタさんが以前行ったスピーチでは100年で6℃上がると言っていて、今回の笠原さんのスピーチでは今世紀中に5.4℃上がるとおっしゃっており、改めて、環境への配慮をしていきたいと思った。そのために太陽光は環境未来社会へのルーツとなることを知った。この後、家を建てると主に、太陽光電池をつなげなければならなくなってくるなど、太陽光の重要性を知った。今日は本当にありがとうございました。

36期生 古屋 公啓 先輩

株式会社太平商会 代表取締役

演題：What Am I doing here ?



生徒の感想

先輩のお話を聞いて、伝える力というものの大切さを知りました。コミュニケーションというものは普段から学校で当たり前のように使っている、実際に社会に出た時に本当に役立たせることができるのかと考えると少し不安になりました。まだ中学三年生で、同学年に話したことの無い人が何人もいるので、頑張って話しかけてコミュニケーション能力を高めようと思いました。

37期生 黒田 健一 先輩

清水建設株式会社 設計本部企画管理部主査

演題：あなたは、あなたの歩んできたもので、
できている。



生徒の感想

まだ自分は、将来就きたい職業など決めておらず、どこに進めばいいか不安でした。しかし、先輩のお話を聞き、自分が興味を持っていること、人のためになる職業に就くのは大事だなと思いました。「仲間を大切に」「会話力を上げる」当たり前のことかと思われそうですが、仲間がいないと今の自分はいなし、会話力を上げないと、会社での交渉やプレゼンもできないので、とても大事だなと思いました。先輩の人生のモットーは、「前向きに生きる」これは本当に大切に、どれだけつらいことがあったとしても常に前向きに生きようと思いました。今回の経験をこれからの人生に生かしていきたいです。

37期生 小林 隆之 先輩

ガイテスコ・テクノロジー・ジャパン株式会社 センシング&アクチュエーションズ プロジェクトマネージャー

演題：新しい時代を生きる君たちが知っておくべき
こと、なすべきことについて一緒に考えよう



生徒の感想

今回は講演していただきありがとうございました。講演を通して仕事をする上で自分にとってモチベーションを高く、取り組む大切さを学びました。指示されているからやるのではなく、人や社会のためにしているなど、ポジティブに捉えることで自分のやりたい仕事に近づくし、見つけられるのだと思います。これは、学校生活でも同じで部活や勉強も、捉え方によって変わると思うから、まず一歩チャレンジしてみます。これからの時代、AIが不得意な主体性・非認知能力が必要だと学んだから、これからの人生で色々な人と関わり、コミュニケーション力、当事者意識を持って、最後には自分が「誰かのためになっている」と、好きになれる仕事を見つめたいです。

37期生 木下 弘 先輩

ドウカティジャパン株式会社 アフターセールス部エリアマネージャ

演題：○くなるな、☆になれ…



生徒の感想

講演内容の案内にあった、「○くなるな、☆になれ」という言葉は、何となく周りに合わせてしまい、空気を読んで、尖らせないようにまるくなってしまいがちであるが、興味があるものをつきつめて、自分の個性や強みを生かすことが大切だという意味があると知りました。また、これからの進路は「なりたいたいものにむけて進路を考える」と「今、身に付けているスキルからなれるものを探す」という2つの選択肢があるということを知りました。今、自分に出来ることは講演で紹介された表の輪だと思い、その努力をしていこうと思いました。

同窓生による 勉強会、意見交換会

キャリアスタディの活動は、対象としている中学3年生が学ぶだけではなく、関係している同窓生にとっても学ぶことが多くあります。この学びを同窓生で共有し学び合う事が有意義であると考えて、「同窓生による勉強会、意見交換会」という企画を2021年6月に開始しました。

この企画では、社会の変化が激しい現代において「これからの時代を生きて行く私たちにとって必要なこと」を主題にして、SDGsを中心とした社会課題に対するアクションを取り上げます。

本企画は定期的(月1回を目途)にオンライン会議形式で開催します。

現在キャリアスタディに関わっていない方にも積極的な参加をお願いします。

参加をご希望の方は、ホームページの問い合わせにその旨を記入してお送りください。

第47回総会報告

今回の総会はCOVID-19対策で、議案書をホームページに掲載(掲載期間2022年4月10日~5月9日)し、会員の承認を得ることとした。その結果、承認を得た。

- 2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)活動報告
- 2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)活動計画報告
1. 同窓会総会は、ホームページに掲載して承認を得た。

2. 会員の親睦を図るための懇親会は、COVID-19の蔓延防止のために中止した。

3. 年6回の理事会を開催した。

4. 年2回機関紙「柏」を発行した。(HPにも掲載)

5. 母校の「柏苑祭」は、COVID-19の蔓延防止のために参加を見送った。

6. 母校の「キャリアスタディ」に協力した。

7. 母校のクラブ活動支援は、具体的な活動がなかった。

8. SDGsについての勉強会を、学校の先生も参加して行った。
1. 同窓会総会はホームページに掲載して承認を得る。

2. 会員の親睦を図るための懇親会は、COVID-19の蔓延防止のために中止する。

3. 年6回の理事会を開催する。(必要により、臨時理事会を開催する。)

4. 年1回(1月末)機関紙「柏」を発行する。(HPにも掲載)

5. 母校の「柏苑祭」が開催されれば参加し、同窓会賞を贈呈する。

6. 母校の「キャリアスタディ」に協力する。

7. 母校のクラブ活動を支援する。

8. 勉強会を実施する。

9. 学校との定例連絡会を計画する。

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)決算報告

2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)予算案報告

一般会計報告(収入の部)

科 目	予算額	決算額	内容
入 会 金	2,850,000	2,850,000	68期生285名
引 継 金	5,130,574	5,130,574	前年度より
キャリアスタディ	1,200,000	1,200,000	
雑 収 入	20	53	利息等
合 計	9,180,594	9,180,627	

一般会計報告(支出の部)

科 目	予算額	決算額	内容
会 議 費	30,000	3,000	保護者会準備
交 通 費	10,000	0	
総 会 費	0	0	宅配便等雑費
『柏』制作費	10,000	0	編集委員会
通 信 費	30,000	21,410	Web会議ツール他
印 刷 費	250,000	272,998	柏73号,74号各1,650部, 規約300部
事 務 費	6,000	52,389	銀行手数料他
事務局活動費	30,000	24,000	
同窓会賞費	0	0	
小委員会費	0	0	
名簿整備費	40,000	38,500	
柏苑祭費	50,000	0	
HP維持費	3,000,000	2,706,440	改修費
会員交流補助費	0	0	総会懇親会中止
キャリアスタディ	1,200,000	1,200,000	
基金へ繰入金	500,000	500,000	
予備費	100,000	0	
繰越金	3,924,594	4,361,890	
合 計	9,180,594	9,180,627	

基金会計報告(収入の部)

科 目	予算額	決算額	内容
繰 入 金	500,000	500,000	
引 継 金	2,000,027	2,000,027	前年度より
雑 収 入	10	21	預金利息
合 計	2,500,037	2,500,048	

基金会計報告(支出の部)

科 目	予算額	決算額	内容
取 崩 金	0	0	
繰 越 金	2,500,037	2,500,048	
合 計	2,500,037	2,500,048	

上記の通り2021年度会計を報告いたします。

2022年4月2日 会計代行 佐々木 幹夫

会計監査報告

前記会計内容を監査の結果、正しく表示、記載してあることを認めます。

2022年4月4日 会計監査 長谷部 伸一

収入の部

科 目	予算額	内容
入 会 金	2,290,000	69期生229名
引 継 金	4,361,890	前年度より
キャリアスタディ	1,200,000	企業訪問なし
雑 収 入	20	利息等
合 計	7,851,910	

支出の部

科 目	予算額	内容
会 議 費	10,000	学校との打合せその他
交 通 費	10,000	
総 会 費	0	宅配便等雑費(総会はWeb開催)
『柏』制作費	10,000	編集委員会
通 信 費	30,000	Web会議ツール他
印 刷 費	250,000	柏75号1,600部, 規約300冊他
事 務 費	60,000	銀行手数料他
事務局活動費	24,000	
同窓会賞費	0	柏苑祭実施の場合は、既購入品を充当する。
小委員会費	0	
名簿整備費	40,000	
柏苑祭費	0	柏苑祭実施の場合
HP維持費	40,000	サーバー費
会員交流補助費	0	総会懇親会中止
キャリアスタディ	1,200,000	
基金へ繰入金	500,000	
予備費	0	
繰越金	5,677,910	
合 計	7,851,910	

基金会計(収入の部)

科 目	予算額	内容
繰 入 金	500,000	
引 継 金	2,500,048	前年度より
雑 収 入	25	預金利息
合 計	3,000,073	

基金会計(支出の部)

科 目	予算額	内容
取 崩 金	0	
繰 越 金	3,000,073	
合 計	3,000,073	

理事：理事は、“東京都市大学附属中学校・高等学校同窓会規約附属書”に記載の“同窓会役員名簿”のとおり。(ホームページをご覧ください。)

*同窓会ホームページ <http://tcu-kasiwa.org/home/index.html>



★来年度の
総会・懇親会案内

日時：2023年5月27日(土曜日)ただし、COVID-19の状況により中止の場合あり。
総会：16時開始 懇親会：16時45分 事前に申込み及び会費納入が必要
場所：渋谷 エクセル東急ホテル 東京都渋谷区道玄坂1-12-2(渋谷マークシティ内)
開催可否等は2月中旬に同窓会ホームページに掲載します。